

固い地盤と、地盤に合ったタイプの基礎が大切

●足元がふらついていたらダメ

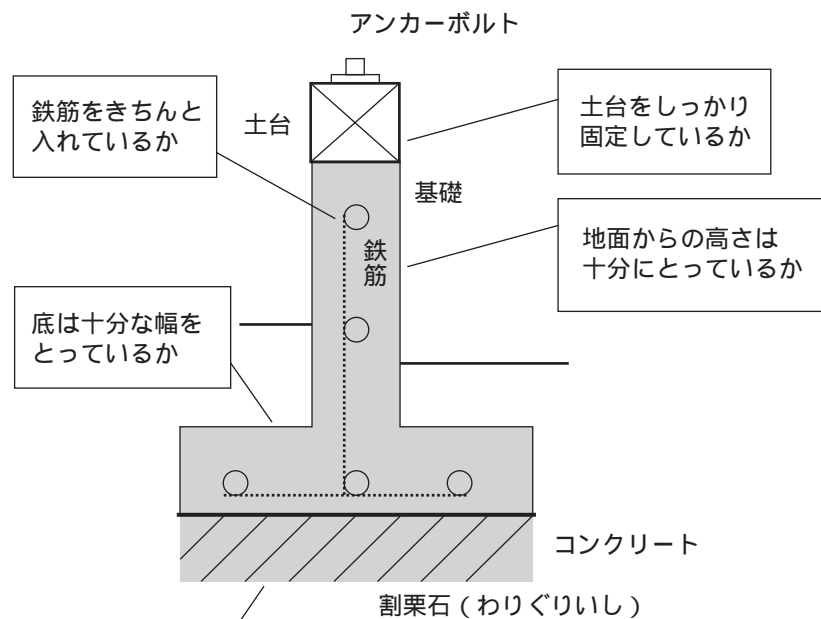
建物をしっかり造っても、足元がふらついていたら、地震や台風に強い住まいとは言えません。踏ん張るときは足の親指に力を入れよ、と言うくらい、足元は大切です。足元を固めるのは、基礎。地面の近くに壁のように見えているコンクリートの部分です。ここで建物の重さを受け止めて、大地に伝えます。

基礎はまず、地盤の固さと合ったタイプを選ぶ必要があります。戸建ての住まいでは、断面が逆T字型のコンクリートを壁のように巡らせた「布基礎」を使います。同じ布基礎を用いるにしても、造りをしっかりさせなければなりません。阪神・淡路大震災でも基礎の造りや原因とする被害が見られました。基礎の下はきちんと突き固められているか、基礎の大きさは適切か、鉄筋を入れてあるかなど。工事の途中でも確かめられる点なので、チェックを怠らないようにしましょう。

●柔らかい地盤では地盤沈下の恐れも

建物には重さがあります。それを支えているわけですから、基礎と地盤は日常から大事な役割を果たしていると言えます。地震や台風のような、いわば非常時だけではありません。地盤が柔らかいように、そうした地盤の様子を見込んで足元を造っておかないと、さまざまな問題も生じます。怖いのは不同沈下と呼ばれる現象です。建物が沈むにしても、場所によって沈み方が違うものです。基礎がたわめば損傷を生じる恐れもあります。建物にもたわみが生じるので、床が傾いたり建って付けが悪くなったり、建物に不具合が出てきます。

敷地から新しく手に入れようとするなら、土地を選ぶときの視点に地盤の良し悪しも加えましょう。建て替えようとするなら、もとの建物でどの程度沈下が見られたのかを確かめておきましょう。宅地造成で土を盛ったり削ったりした場所は注意が必要です。



地盤の悪いところとは……

- ごみで埋め立てた土地。
- 海、川、池、沼、水田などの埋め立て地。
- 液状化の可能性のある土地（海の近くなど）。
- 土を切り盛りした土地。丘陵地の盛土をした所で、小規模な造成工事による土地。
- 腐植土の分布する土地



建物は足元が肝心。重さを受け止める基礎はしっかりしたものに。基礎は地盤の固さに合ったタイプを。造りにも気を配りましょう。できるなら地盤のいいところを選んで、不同沈下を避けましょう。